



筑紫路

発行

 自衛隊福岡病院
 春日市小倉東1丁目
 61番地

 Tel. 092-581-0431
 ホームページ


「着任二年目のスタート」

 自衛隊福岡病院長
 兼春日駐屯地司令
 陸将補 松本 泰憲

昨年八月に自衛隊福岡病院長を拝命して早一年が過ぎました。この間、わが国を取り巻く安全保障環境の変化に対応した新たな防衛大綱が策定され、元号が平成から令和に変わり、先の北部九州の記録的豪雨や千葉県に大規模停電をもたらした台風十五号をはじめとする災害が相次いで生起する等、情勢は刻々と変化し、変化のスピードも一段と増してきているように感じます。

このような中、病院長としての一年を振り返ると、当院は近年の救急診療や手術数の増加等に伴う各種課題に対応するとともに、日々の診療で培った専門的技術を野外での外科手術の実効性向上に反映させるべく、本年度開始された西方DCS (Damage Control Surgery: 外傷による胸腹部の血管損傷の修復等、生命維持のために行う暫定的な緊急手術) 訓練等に積極的に参加し、衛生科部隊等と連携

してきました。新病院建設に向けた実施設計や井戸調査が着実に進捗し、准看護学院では卒業生全員が資格試験に合格する等、全職員の奮闘によって、「自衛隊病院としての実力向上」が目に見える形で実現できていると思います。

今年度、自衛隊福岡病院は創立六十四年を迎えます。当院は言うまでもなく自衛隊にとって九州沖縄地域最大の職域病院です。自衛隊の職域病院の使命を考えるとき、私が思い起こすのは、昨年度の西部防衛医学集合訓練における折木良一元統合幕僚長のお言葉です。折木元統幕僚長はご講演の中で、我々衛生科隊員に対して、「事に臨んでは危険を顧みず身をもって責務の完遂に務める」という職務の宣誓をして職務にあたる隊員に医療を提供する意義や重要性を認識してほしい、とおっしゃいました。高い使命感を持って国民を守る隊員を救う「最後の砦」としての重責を我々は平素の診療においても忘れてはなりません。他方、当院が保健医療機関として一般開放してから約十三年が経過し、諸先輩方のご尽力により民間の患者数は近年右肩

上がりとなり、地域の総合病院としての役割も確実に増えています。

私は着任二年目のスタートにあたり、当院の基本理念である「自衛隊における九州の中核型基幹病院として自衛隊員はもろん国民に信頼される病院を目指す」に改めて立ち返り、自衛隊の職域病院と地域の医療機関という両面で責務を果たすために、全職員と共に質の高い医療を提供し、即応性を発揮し、実効性ある教育訓練を実施してまいりたいと思います。引き続き宜しくお願い申し上げます。



人事往来

〈転入者〉

総務部長


 2等陸佐 小川 和明
 (前所属) 衛生学校 (三宿)

八月一日付で総務部長に着任いたしました。病院総務業務、駐屯地業務隊業務及び駐屯地司令業務を隊員等と一緒に一歩一歩着実に積み上げ、病院としての実力向上及び信頼される駐屯地のために努めていきますので皆様のご指導をよろしくお願いいたします。

企画室

《八月一日付》
 三等陸佐 穴田 慎次郎
 三等陸佐 刑部 高志
 准陸尉 北崎 正弘

総務部

二等陸佐 小川 和明

(総務課)

陸曹長 大石 健一
 陸曹長 久松 克義

(管理課)

一等陸曹 佐々野 瑞枝

(給食課)

二等陸佐 山本 弘士
 陸曹長 角田 孝樹

診療科

一等陸尉 神津 慶多
 一等陸尉 田原 健一
 一等陸尉 森田 亘
 一等陸尉 人見 泰弘

〈転出者〉



診療技術部

医(二)一 山本 高之
 川口 真樹子

(放射線課)

二等陸尉 橋本 智

衛生資材部

陸曹長 中山 嗣正

(衛生資材課)

一等陸尉 武藤 利彦

看護部

一等陸尉 甲斐 友子
 三等陸曹 岸野 泰樹
 三等陸曹 緒方 崇人

企画室

《八月二十三日付》
 一等陸尉 山下 英寿

企画室

三等陸佐 本田 勝則
 三等陸佐 荒木 直子
 一等陸尉 池田 貴志
 陸曹長 永田 茂晴

総務部

二等陸佐 上田 健一

(総務課)

一等陸尉 児玉 達哉
 准陸尉 床島 一義

(管理課)

陸曹長 秋枝 良太

(給食課)

一等陸尉 米盛 祥一

診療科

一等陸尉 大塚 泰弘
 一等陸尉 佐々木 大雄

衛生資材部

(衛生資材課)
 一等陸尉 永井 豪

看護部

二等陸曹 辻 星子
 二等陸曹 藤井 誠

准看護振山徒歩行進訓練

准看護学院（学院長・井上一佐）は、令和元年六月十四日、脊振山系において徒歩行進訓練を実施した。

第四十四期生二十四名は、発生する模擬患者の状況に対し、懸命に対応し、患者看護及び搬送を実施した。入校してまだ約三ヶ月の学生たちは、本訓練を通して、看護の知識技術及び体力向上の必要性を学ぶことができた。



西方DCS訓練

当院は、令和元年六月二十七日、大矢野演習場において方面隊が実施する戦傷治療集合訓練に医官・看護官及び診療助手を参加させ、FSTによるダメージコントロール手術（DCS）として肝臓及び下大動脈の止血や腸管損傷処置等の手術及び術前・術後業務要領を行い練度向上を図った。



診療圏内衛生科長等集合訓練

当院は、令和元年七月八日、診療圏内にある駐屯地業務隊衛生科長等二十八名に対して、当院の診療業務と各種施策及び衛生科長等から駐屯地等における健康管理施策について説明し、認識を共有するとともに病院及び駐屯地等との連携強化を図った。



准看護水難救助訓練

准看護学院（学院長・井上一佐）は、令和元年七月十六日、水難救助訓練を実施した。

晴天の中、遠泳及び溺者救助法・消防夫搬送及びBLS等を演練した。なかには水泳を苦手とする学生もいたが、助け合いながら全員が訓練を最後までやり遂げた。水難救助法の重要性と難しさを学んだ。



診療技術部

〈転入者自己紹介〉

熊本病院から移動になりました。引き続き技師として勤務できる事を嬉しく思っています。
（橋本二尉・写真左）

福岡駐屯地四後支衛生隊より、理学療法班へと参りました。自分に出来る事を精一杯やる事で少しでも病院の役に立てよう頑張ります。
（中山曹長・写真右）



衛生資材部



八月一日付で衛生資材課長に上番しました武藤一尉です。衛生資材課は、医薬品及び衛生材料、医療備品の調達・納入・保管・検査に携わっている部署です。衛生資材の観点から、病院を支えて参ります。よろしくお願いします。

看護部

本年6月、西田曹長、佐藤曹長、小川曹長が幹部候補生学校に入校しました。入校中、三等陸尉に任官し、厳しい訓練を通して、幹部自衛官としての素養を磨くことができました。引き続き衛生学校に入校し、衛生科幹部としての技術を磨いて参ります。



河川功労者表彰

当院は、令和元年八月一日に、福岡県河川協会より「感謝状」を贈呈されました。牛頸川の清掃活動において、曹友会主体として参加し、河川に対する愛護を持って活動した結果です。今回の表彰に恥じぬように、今後とも地域の皆様と河川の美化を続けていきます。



医官・技官の紹介

外科医官として着任いたしました神津一尉です。外科医らしくフットワーク軽く、元気に、せっかちに働きたいと思っております。初めての九州で不安な所もありますが、御指導御鞭撻のほどよろしくお願い致します。

新着の田原と申します。専攻科は整形外科であり、特に脊椎をメインに診療を行っております。訓練や演習などで怪我をすることも多いと思いますので、お困りの際には気軽に受診して下さい。宜しくお願い致します。

福岡生まれですが、勤務するのは初めてになります。丁寧な説明と患者さん目線の治療を心がけます。不慣れな所もあり迷惑をかけるかもしれませんが、よろしくお願いします。

新任の人見です。専攻は循環器内科です。狭心症や心筋梗塞などの治療を行ってきましたが、福岡では主に疾病予防に尽力いたしております。健康相談等でもいいのでお気軽に声をかけていただきますと幸いです。

二回目の自衛隊福岡病院勤務になりました。専門の呼吸器疾患のみならず、内科疾病全般の診療を担当させていただきます。宜しくお願い致します。

歯科衛生士として八月一日付で自衛隊福岡病院勤務となりました。皆様のお口の健康を保てるように努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



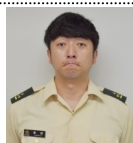
補職：歯科衛生士
階級：医（二）
氏名：川口 真樹子



補職：呼吸器内科医官
階級：1等陸尉
氏名：山本 高之



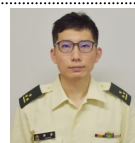
補職：循環器内科医官
階級：1等陸尉
氏名：人見 泰広



補職：精神科医官
階級：1等陸尉
氏名：森田 亘



補職：整形外科医官
階級：1等陸尉
氏名：田原 健一



補職：外科医官
階級：1等陸尉
氏名：神津 慶多